

姉妹都市ロッキングハムへ～Amazing everyday～

グローバル化に対応する人材育成・英語教育の充実をめざして「英語教育推進体制整備事業」として、平成28年8月6日から12日までの7日間、市内中学3年生8名、市内小中学校教員4名を赤穂市の姉妹都市である西オーストラリア州ロッキングハム市へ派遣しました。

教員は、現地の小学校を訪問し、日本の教育システムの違いにふれることができました。また、赤穂市や日本の学校生活を英語で紹介することができました。

中学生は、英語で小学生におりがみを教えたり、一緒になわとびをしたり交流を深めました。また、ホームステイを行い、文化の違いを体験することができました。

現地の方々のやさしさ・温かさにふれ、「伝えたい」「話したい」という思いをもって、7日間研修を深めることができました。



City of Rockingham (ロッキングハム市)

パースの南に位置し、人口13万人の自然豊かな海岸に面した都市で、市名は、漂着した船の名前「ロッキングハム号」に由来しています。赤穂市とは、平成9(1997)年に姉妹都市提携を結びました。(来年は、姉妹都市提携20周年を迎えます) ロッキングハム市庁舎前の通りは、「AKO LANE」(アコウレーン)と名付けられています。



NHK土曜時代劇で『忠臣蔵の恋〜四十八人目の忠臣』放映中!

NHK大河ドラマ『元禄繚乱』が放映されたのが平成11年。以来、民放も含めて「忠臣蔵」は何度かテレビドラマ化されましたが、いずれも短編ばかりでした。そして、昨年から忠臣蔵サミット参加自治体で大河ドラマの誘致に向けての取り組みがスタートしました。そうして、今年9月24日からNHK総合テレビの土曜時代劇で『忠臣蔵の恋〜四十八人目の忠臣』の放映が始まりました。

NHKの土曜時代劇は、毎週土曜日の午後6時10分〜45分の35分番組で、第1回放送は9月24日、年末年始の休止をはさんで2月まで、全20回に及ぶとのこと。原作は諸田玲子さんの『四十八人目の忠臣』です。諸田さんといえば、平成23年10月、赤穂義士会講演会の講師としてお迎えし、当時発刊されたばかりの『四十八人目の忠臣』を題材に軽やかに話したことは記憶に新しいところです。『四十八人目の忠臣』は、義士磯貝十郎左衛門を愛した浅野長矩奥方の女中きよが、義士の討入り成功に大きな役割を果たし、後に將軍の生母になるといふ波乱万丈の半生を描いた愛の物語です。主人公きよ役に武井咲さん、磯貝役に福士誠治さん、堀部安兵衛役に佐藤隆太さん、仙桂尼役に三田佳子さんら豪華なキャストで、これがドラマ化されるのは赤穂人にとって感慨深いものがあります。市史編さん室では、シナリオのチェックや、劇中で使われる文書などの小道具の資料提供を行うなど、制作に協力しています。今後、討入りに向けて怒涛の展開が待ち受けています。どうぞご期待ください。

このドラマの放送をきっかけに全国的に「忠臣蔵」が盛り上がることを期待しつつ、大河ドラマ誘致に拍車がかかるよう市民一丸となって応援していきましょう。

教育委員会だより

すくすく のびのび いきいき

平成28年11月 第15号 発行：赤穂市教育委員会 ☎0791-43-6857

ぼくたちわたしたちの幼稚園、完成!!

新学期から3つの幼稚園の園舎が新しくなりました。耐震化のため園舎を改築し、真新しくなった園舎では、これまで仮設園舎で我慢してきた園児たちの声が響き渡っています。

赤穂幼稚園

真っ赤な柱をくぐると、ガラス張り八角形のエントランスです。正面には整備された園庭が広がり、毎朝120人の子ども達を出迎えてくれます。子どもたちは、挨拶を交わし、一日の始まりを先生や友だちとスタートさせます。吹き抜けの高い天井は、放感を感じさせてくれます。

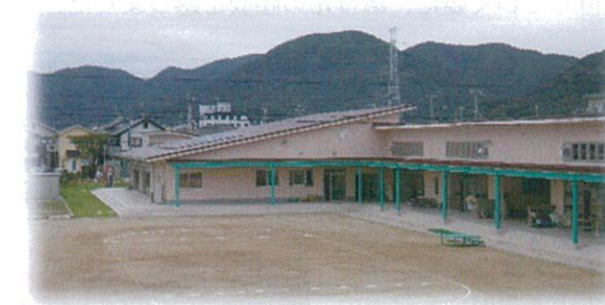


尾崎幼稚園

玄関を入り、まず目に飛び込んでくるのが、広いエントランスホールとその先にある中庭です。その中庭には、芝生が植えられシンボルとなる木も植えられています。そして、小さな砂場が設置されています。その全貌が玄関に入ったとき、一瞬にして目に飛び込んできます。「おっしゃー」「気持ちいい!」と口々に言う子ども達。心地良い開放感が味わえる玄関です。子ども達も職員も、一日の始まりを気持ちよく迎えることができる新園舎となりました。



塩屋幼稚園



「わあーピンクの幼稚園」「高いなあ」「長いなあー」新園舎での園児たちの第一声です。天井が高くのびやかな空間、大きく明るく生まれ変わった塩屋幼稚園。隣接の公園と一体化したようなダイナミックな園庭は、大小二つあり、安全で思い切り体を動かすことができ、子どもたちは楽しい空間に自然と心が弾みます。



新しくなった遊具(塩屋幼稚園)



児童生徒交流大会を開催しました

児童生徒自身が、自分たちでよりよい学校づくりをめざして、平成28年8月3日赤穂市文化会館で「児童生徒交流大会」が開催されました。市内小中学校の代表児童生徒・教員、PTA等各種団体、地域の方々約590人が参加しました。赤穂小学校の金管バンドクラブのオープニングで始まりました。

1 取組報告Ⅰ（城西小学校）

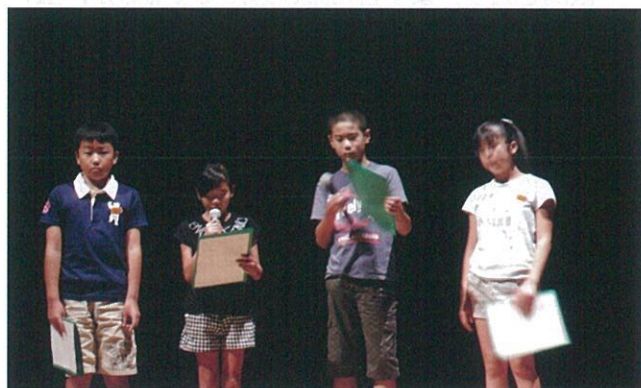
城西小学校の児童会4名が、学校での児童会活動の取組を発表しました。全校児童が仲良くなるためにたてわり班活動を積極的に行ったり、全校で楽しめる行事を企画していることを報告しました。

2 取組Ⅱ（赤穂市中学校生徒会）

赤穂市内5校の生徒会役員がステージ上で、生徒会の取組を交流しました。その中で、携帯電話やスマートフォンなどの使用について焦点化し、所持の

現状、課題、今後について考えました。情報交換する中で、「スマホなどの使用に際して、統一したルールづくりが必要である」ということになりました。今後は、生徒交流を定期的に行い、ルールを作り、各校で広げていきます。

コーディネーターの竹内和雄先生（兵庫県立大学環境人間学部准教授）に、「スマホのルールづくりについては、家族や地域の方々の協力が必要である。」とアドバイスいただきました。



取組Ⅰ（城西小学校）



取組Ⅱ（赤穂市中学校生徒会）

幼稚園の先生が保育所の先生に～幼稚園教諭・保育所保育士短期交流から～

今年で幼稚園教諭と保育士の短期交流は3年目になりました。夏に幼稚園教諭が保育所の3歳児クラスに入り、3歳の子どもの姿や、保育士の環境への細やかな心配りなどを学ぶことができました。

○発達に合わせた環境作り

トイレでは、衣服の着脱や自立が確立途中なので、着脱する椅子を用意しタオルでくるむなど衛生面の配慮がされていました。また、スリッパをきちんと並べて脱ぎ、幼い頃からのしつけの積み重ねの大切さを感じました。

○先生同士の関係プレー

小さな子どもたちは目を離すと危険がたくさんあるので、複数の保育士でかかっています。その先生同士の関係プレーが素晴らしい。

プール後の片付けでは、子どもをシャワーで流す人、着替えの補助をする人、マットや脱いだ水着をすすぐためのタラ



イの用意をする人に自然に分かれて素早く対応していました。子どもの動きに合わせて次々と環境を整え直していく姿に、あうんの呼吸を感じました。

○1年の発達の重みを感じて

4歳児、5歳児を担当している幼稚園教諭にとって、「3歳児でも、こんなこともできるのか」と驚いたり、逆に「これはまだできないのだな」と発達段階を感じたりできました。3歳児の姿を踏まえての4歳児、5歳児の保育へとつなげていきたいと思います。

秋には保育士が幼稚園の先生になります。そこでの学びもまとめ、子どもの理解と保育の向上につなげていきたいです。



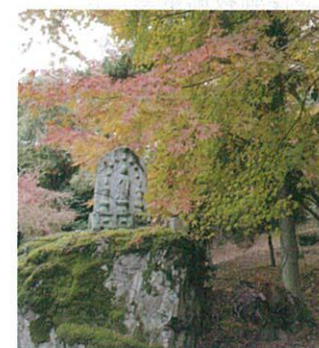
赤穂市歴史文化基本構想を策定します

このたび赤穂市教育委員会では、文化庁の補助を受けて、平成28～29年度の2か年で歴史文化基本構想を策定することとなりました。

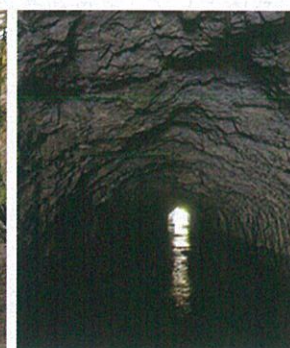
「歴史文化基本構想」とは、地域に存在する文化財を、指定・未指定にかかわらず幅広く捉えて、的確に把握し、文化財をその周辺環境まで含めて、総合的に保存・活用するための構想であり、地方公共団体が文化財保護行政を進めるための基本的な構想となるものです。

「文化財」というとたいへん堅苦しく感じますが、赤穂の自然、風景、祭り、食べ物や地域の歴史など、市民の方々にとってなじみ深いものまで含めた「文化遺産」「地域の宝」をみんなで探し、まとめあげたうえで、今後のまちづくりに活かしていこうという構想です。

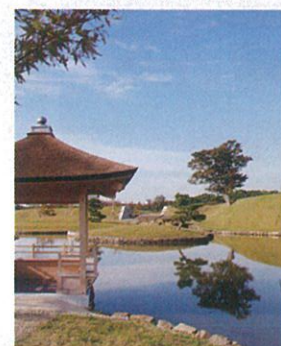
今後は、市民アンケート等を実施する予定ですので、赤穂市の文化財行政をよりよく身近なものにするため、ご協力をよろしくお願いいたします。



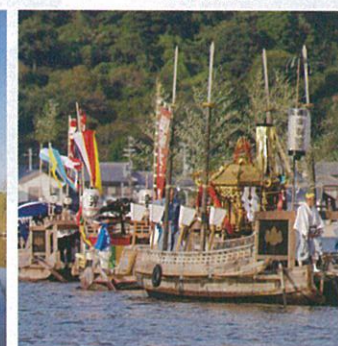
光明寺の紅葉



切山隧道



赤穂城跡二之丸庭園



坂越の船祭

新指定文化財のご紹介

このたび、平成28年8月31日をもって、3件の市指定文化財が新たに追加されましたので、紹介します。

■赤穂浅野家藩札 2件

浅野長矩時代の延宝8（1680）年1月に発行された藩札です。

浅野家は元禄14（1701）年に改易となったため、21年間だけ通用したもので、札の表にはそれぞれ「播州赤穂 延寶八庚申歳 正月吉祥日 銀貳分」、「播州赤穂 延寶八庚申歳 正月吉祥日 銀拾文目」とあります。

ただし、後年に刷られた札も、当初の図柄・年月を踏襲したと思われます。現在確認できている浅野時代の赤穂藩札は5点のみで、そのうち2点について、日本史上の有名な事件にかかわる点と希少な点から、指定されたものです。



■塩屋荒神社屋台行事

赤穂城下の北西に位置する塩屋地区の歴史は古く、堂山遺跡から弥生時代の製塩土器のほか、平安時代から鎌倉時代前半にかけての製塩遺構がみつかっています。また中世には東大寺の荘園「石塩生庄」がありました。

塩屋荒神社で行われる屋台行事は、10月25日以前の最も近い土日に開催される秋祭りにおいて、東西2地区の大屋台のほか、多数の子供屋台などが使用され、途切れることなく唄われる伊勢音頭を背景として練りや差し上げが行われるもので、優美な印象を与えます。

市内における大規模な屋台行事として貴重であり、明治に遡る歴史を持つ屋台などを維持している点で、無形民俗文化財に指定されたものです。

